

=ジョカツ!!

男女共同参画や多様性の社会といっても、まだまだ女性が少ない我々の消防という職場。その中でキラリと輝いている女性の活躍や取組にフォーカスした【ジョカツ!!】。不定期ではありますが、いろんな話題をお届けしていきます。



皆さんこんにちは！
救急部救急課担当係長
(救急装備)の松浦貴子と
申します。

このたび、大阪市消防局から女性として初めて消防大学の助教授として派遣された2年間の貴重な経験を投稿させていただくことになりました。消防大学での経験から得た学びなどを、お伝えします！

◆消防大学ってどんなところ？

消防大学は、消防組織法でも定められている国の機関で全国の消防職員・消防団員に対し、幹部としての高度な教育訓練を行う消防の最高教育訓練機関です。全国約16万7千人の消防職員のうち、受講できるのは、毎年、わずか1%という狭き門！大阪市消防局からも、選ばれた職員が論文などで選考され、毎年受講しています。私が在籍していた消防大学の教務部は、教授2名(司令長)、助教授20名(司令)と、非常勤職員で構成されています。教授や助教授は、全国の消防本部から派遣されており、任期は基本的に2年。毎年、ちょうど半数ずつが入れ替わる仕組みです。

女性教官も活躍していて、私が務めた時点の女性教官は2名でした。

それまでの関東圏を中心とした派遣から、初の関東圏以外の女性教官として大阪市より派遣され、新たな一歩を踏み出しました！

◆消防大学の教官ってどんな仕事？

消防大学校での仕事は、大きく分けると「教育課程の運営」と「技術支援」です。「教育課程の運営」は、学科やコースのカリキュラムの企画や授業準備、外部講師との調整、そして実際の授業まで幅広く行います。赴任直後は、慣れない環境と仕事内容等で苦労しましたが、他の教官達と事務を分担できたこと、大阪府立消防学校で教官経験があったことから、運営の事務作業は比較的スムーズに対応できました。しかし、「予防」の担当としては、しばらく予防分野から離れていたため、不安も大きく、最新の流れや内容に追いつくのに大変苦労し、日々勉強を重ねていました。

「技術支援」では、全国の消防学校での講義を行います。私も予防系(査察や危険物)の講義(1回4時間ほど)を担当しました。

1年目は予防科(年2回)や危険物科、査察業務マネジメントコース、救急科、女性活躍推進コースに携わり、2年目は新任教官科も担当しました。年間を通じて7、8ヶ月程度は学科・コース運営、残りの時間は準備や終了報告、さらに技術支援での講義と資料作成の日々です。

また、ホットトレーニングなど、大掛かりな訓練の際は、担当学科を超えて教官全員で協力して取り組んでいます。



同期教官の皆さんと

◆教官の生活ってどんな感じ？

勤務時間は8時15分～17時00分(昼休みは12時～13時)です。

学科の担当に入る時期は、昼間は講師や学生対応でバタバタした毎日となり、次の日の準備等は時間外の対応となることも多くあります。

教官は基本的には大学の敷地内にある宿泊施設で生活していますが、自宅から通勤している人もいます。

宿泊施設には基本的な家電は備え付けられており、歴代の大阪市の派遣教官から譲り受ける物もあるため快適に暮らすことができます。また、敷地内のため、通勤は徒歩3分の距離で通勤に関するストレスはフリーです。

周辺環境も充実していて、日常生活に困ることはありません。東京駅からは1時間ほどと都心からは遠いですが、JRや京王線の駅が利用でき、色々とところへのアクセスが良く便利です。

勤務外は、全国から集まった教官同士で交流する機会が豊富です！部屋での飲み会や、各地の名産品を楽しむパーティーで、消防大学校を含め、消防の未来についてたくさん語り合いました！また、観光や旅行へ行ったり、青森のねぶた祭りや台湾旅行は、特に印象的な思い出です。



卒業旅行 in 台湾

個人的には、自転車で近隣を散策したり、近くの山へ登山に出かけたりしましたし、関西からは行きにくい東北や関東の観光も満喫しました。

当局からの派遣者の宴会では、関西弁を爆発させ、大阪人にリセットされる時間でした。(笑)



同期教官と最後の夜

◆派遣を経験して感じたこと

大阪市から女性初の消防大学校教官として派遣された2年間で振り返り感じたことは、性別や年齢、出身地、経験の違いがあっても、「お互いを教官として尊重する姿勢」があれば安心して働けるということです。本部の規模、所属での立場、家族構成、消防での経験など様々な違いのある職員が全国から派遣されてきますが、その全員に共通していたのは「少しでも今より良くしたい！」という思いだけだった気がします。それぞれ異なる個性や価値観は、違うからこそ面白い。そして、違うからこそ、仕事上の幅広い問題に対応できる強みになると実感しました。同じである必要はなく、違うからこそ補い合える。時には意見がぶつかることもありました。が、学生のためという目的を見失わず、お互いの考えを尊重し合い、話し合いを重ねることができました。

2年間の任期の中で、違いを認め合うこと、そして得意な部分を生かし合う大切さを実感し、自分自身も新しい気づきや成長が得られました。

このかけがえのない充実した時間を過ごした経験から、職場でも社会でも違いを受け入れ、それぞれの強みを尊重し合うことで、よりよい未来がつけられると感じています。

◆おわりに

今回の消防大学校への派遣で、多くの出会いと、大阪市では得られない特別な経験をさせていただきました。

最初は、不安でしたが、周りの人に支えられ、多くのことを学び、2年間の任期を全うすることができました。

新しいことにチャレンジするのは勇気が要りますが、仲間と支え合いながら挑戦すると、不安も軽減され新たな気づきが生まれます。私のモットーは「何事も全力で楽しむ」。思い通りにいかないことも前向きな気持ちで向き合えば、かけがえのない成長につながると 생각합니다。

皆さんも、ぜひ新しいチャレンジへ一歩踏み出してみてください！



6回目となりました、今回のジョカツ!!いかがでしたか。
次回もお楽しみに。

救急現場における外国人旅行者対応について ―統計から過去4年間を振り返る―

はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大で一時激減した訪日外国人旅行者ですが、2023年5月に5類感染症に移行して以来、再び増加傾向が続いています。

今回の「救急いろうは」では、訪日外国人旅行者数の推移や大阪市内における外国人旅行者の救急対応件数及び救急対応に見られる傾向を過去4年間（2021年1月から2024年12月）の統計から振り返るとともに、現場で使える外国語ツールをご紹介します。

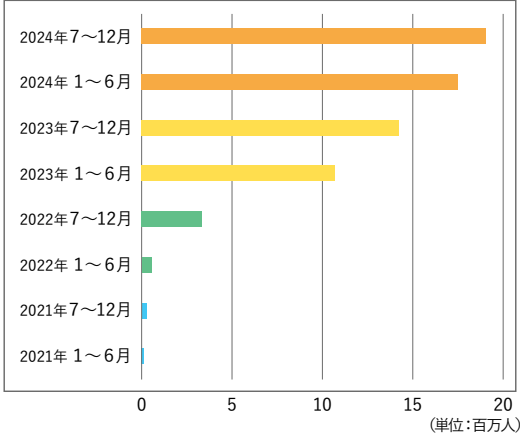


図1 過去4年間の訪日外国人旅行者数
日本政府観光局(JNTO)の統計より

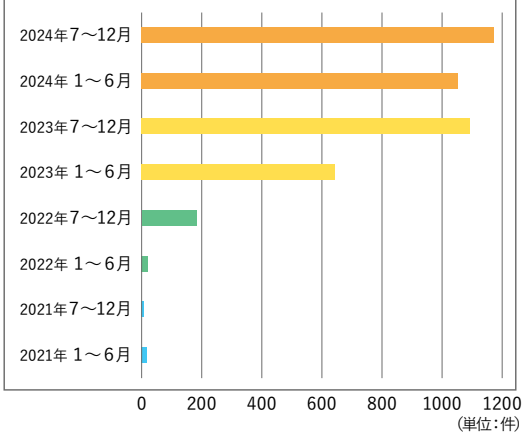


図2 過去4年間の外国人旅行者対応件数

訪日外国人旅行者数の推移

過去4年間の訪日外国人旅行者数の推移を、図1に示します。2021年から2022年上半期は緊急事態宣言の影響で大きく減少しましたが、その後は増加に転じ、昨年下半年に1900万人を超えました。

大阪市内の救急事案における外国人旅行者対応件数

大阪市内で発生した、過去4年間の救急事案における外国人旅行者対応件数を図2に示します。訪日外国人旅行者数同様、2021年から2022年上半期は、対応件数が非常に少なくなっています。その後は増加傾向にあり、2023年の下半期以降は1000件以上で推移しています。

外国人旅行者の救急要請の理由・場所及びその後の経過

大阪市内での外国人旅行者による救急要請は年々増加しており、2021年1月から2024年12月までの対応件数は4153件（※不搬送を含む）に上っています。

救急車呼んだ主な理由は急病が71%と最も多く、次いで一般負傷が24%、交通事故が2%でした。

表1 過去4年間の発生行政区別
外国人旅行者対応件数

	発生行政区	件数
1位	中央区	1,641
2位	北区	633
3位	浪速区	527

(2021年1月～2024年12月)

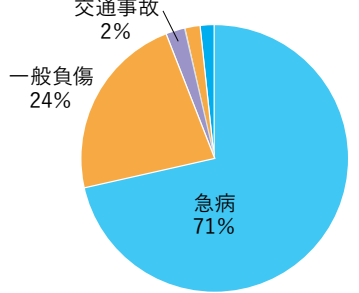


図3 過去4年間の外国人旅行者の救急要請理由
(2021年1月～2024年12月)

た。急病は内科的疾患、一般負傷は外的要因によるものです。(図3)

過去4年間の発生行政区別の対応件数は、1番多かったのが中央区で1641件、次いで北区、浪速区となっています。(表1)

過去4年間の重症度を見ると、軽症が全体の87%、中等症が12%を占めました。(図4)

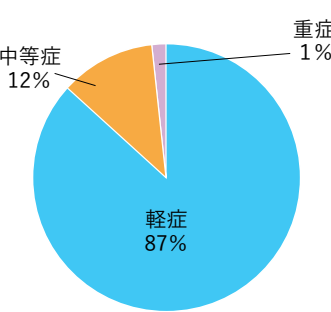


図4 過去4年間の外国人旅行者の重症度
(2021年1月～2024年12月)

※軽症は入院加療を必要としないもの、中等症は入院加療を必要とするもの。

現場で使える外国語ツール(図5)

当局では、救急活動現場において、3つの外国語対応ツールを活用しています。

①救急ボイストラ(多言語音声翻訳アプリ)

各言語の音声翻訳とやりとりができるアプリです。救急現場で使いやすい定型文も備えています。

②救急多言語問診アプリ

傷病者や救急隊は、画面の症状などの項目をタップすることで、自動的に翻訳した内容を確認することができます。

③多言語通訳サービス

日本語を介したコミュニケーションが困難な方からの119番通報及び救急現場の対応を円滑に行うための、民間通訳事業者による電話同時通訳サービスです。



図5 現場で使える外国語ツールの例

おわりに

大阪・関西万博は閉幕しましたが、大阪市内では2030年秋頃に統合型リゾート「大阪IR」の開業が予定されており、今後も外国人旅行者からの救急要請をめぐる動向から目が離せない状況は続くと考えられます。

外国人対応は言葉の壁もあり、病院からの確認事項も多いため、難しく感じることもあると思います。いざという時にスムーズに外国人対応ができるよう、日頃から備えておくことが大切です。ご紹介した外国語対応ツールの使用方法にも習熟し、現場で活用していきましょう。

寒くなってくると、ガスこんろを使う機会も増えるな—
12月はガスこんろの火災、多いみたいやで!



みやちゃん



火災件数が増えるんですね。
今回はガスこんろの火災でどのよう
な経過が多いのか見ていきましょう。



でーやん

大阪市内でもガスこんろの火災件数の半数が冬の寒い時期に起きています!



他のことをしていて
忘れたり、放置してしまう



IHを点けようとしてガスこんろを
点けてしまう等の考え違い

経過としては上の2例が多いです!

調査をする際、関係者からの聞き込みでガスこんろを使用していたかを確認で
きますが、使用立証もした方が良いですね! その方法を見ていきましょう。



まず、ビルトインのようなガ
ス栓に接続して使用するガ
スこんろの場合、ガスメー
ターにある元栓とガスこん
ろに接続されている元栓を
右図で確認しましょう。

ガスメーター元栓

ガス元栓



「開」の状態



「閉」の状態



「開」の状態



「閉」の状態

次はガスこんろ本体を見て
いこか。今回は押し回し式と
プッシュ式について説明す
るで!

押し回し式

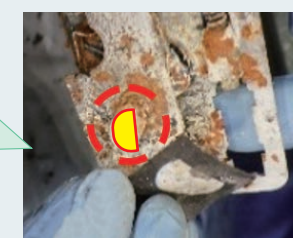


プッシュ式

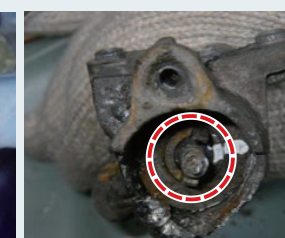


押し回し式・使用立証 ①

押し回し式は、つまみの部
分が半月の形になっている
から、他のつまみの状態や
同型品と比較して使用立証
が可能やで!

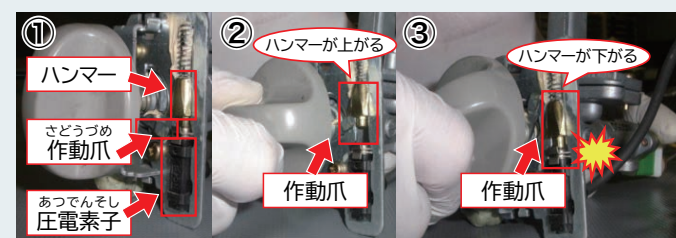


半月が分かりやすいように図で表示したり、マークを付けるとわかりやすいですね。



押し回し式・使用立証 ②

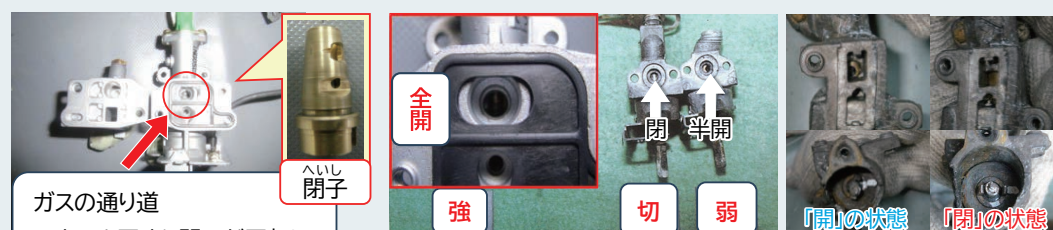
押し回し式は、点火時の作動爪の状況から使用立証が可能です!



①つまみが「止」の位置の状態。作動爪
はハンマーの下にある。
②つまみを回転させると作動爪が一緒
に回転し、ハンマーが上がります。
③点火位置までつまみを回転させると、
作動爪が外れて、ハンマーが下がり圧電
素子とぶつかり、衝撃で高電圧が発生。
高圧リード線で導かれた点火プラグで
火花が発生します。

焼損したガスこんろの作動爪の位置がハンマーより上にあれば使用していたと言える!

押し回し式・使用立証 ③

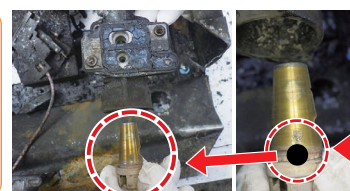


ガスの通り道
つまみを回すと閉子が回転し、
ガスの流量が変化する

閉子が全開の状態だと、ガスが通りや
すくなるので強火となり、全て閉じてる
状態が「切」となります。

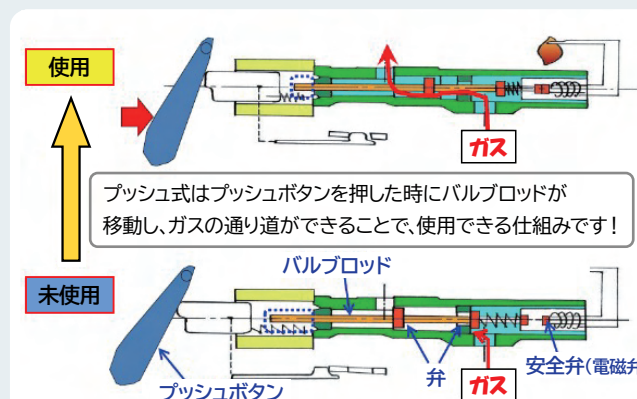
前ページの半月と一緒に
見ても分かりやすいな!

すす
煤や焼けが閉子に残っている形で「切」や「弱」の状態がわ
かります!
煤や焼けが閉子に残っていない場合、「強」だった可能性が
高いです!



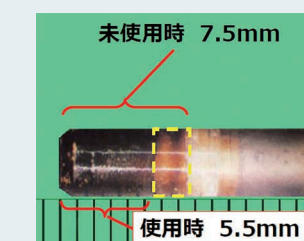
煤や、焼けが
残ります!

プッシュ式



まとめ

- ・ガスこんろの使用立証は、まずガスメーター元栓、ガス元栓をチェック!
- ・押し回し式のガスこんろは「つまみ」「作動爪」の位置や「閉子」の煤の状態をチェック!
- ・プッシュ式のガスこんろは「バルブロッド」の煤の状態をチェック!



焼損した時は、パーツの焼失により
バルブロッドが移動し、バルブロッ
ドに焼けの層ができるけど、見分す
るのは非常に難しいで!



実科査閲



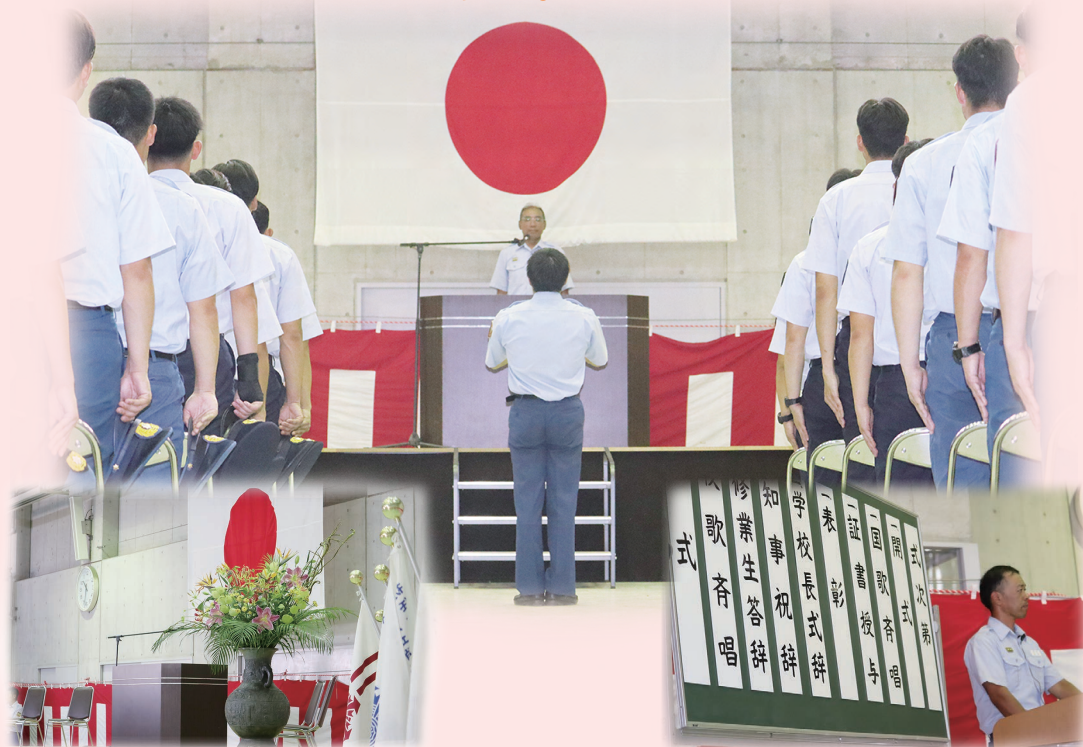
朝夕の風に秋の気配を感じるようになった9月26日、第118回初任教育の実科査閲と修業式が行われました。

6カ月間の厳しい訓練を乗り越えた初任教育生は、これまで支えてくださった方々に、成長した姿を披露しました。

救急訓練では、傷病者に寄り添い適切に病院搬送する「救急技術」を学びました。ポンプ・ロープ訓練では、消防の根幹となる「消火技術」と、自身と仲間の安全を確保しながら人を救う「救助技術」を学びました。

そして、すべての訓練に共通する絶対にあきらめないという「熱い気持ち」を身につけました。

修業式



救急救命ラリー



最優秀小隊 第4小隊



ウィアー ルーキーズ！ 大阪府立消防学校 初任教育生 月間報告



9月

第118回初任教育もいよいよ大詰めを迎え、ポンプ・ロープ・救急の総合訓練として「救急救命ラリー」及び「実戦ポンプ操法」を実施しました。「救急救命ラリー」では、救急基本手技から現場対応能力に加え、応急手当指導技術を小隊ごとに競いました。

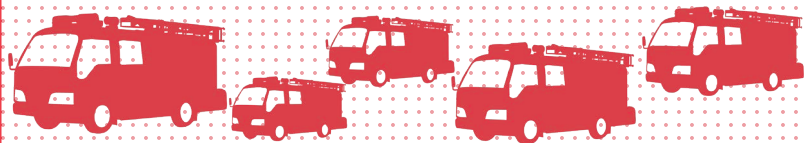
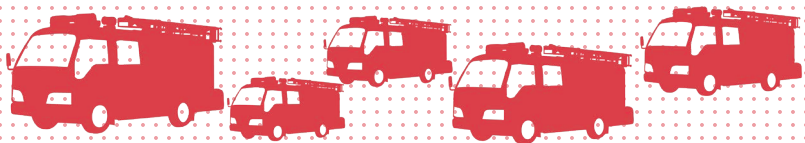
「実戦ポンプ操法」では、今年度から新たな訓練方法を導入し、消火・救助の各訓練14項目について、安全・確実・迅速性を競いました。学生は、これまで培った知識と技術の更なる向上を目指して自己研鑽に励み、当日は活気ある訓練の中で、その成果を遺憾なく発揮しました。

結果は、「救急救命ラリー」「実戦ポンプ操法」とともに、第4小隊が見事、最優秀小隊の栄誉に輝きました。

実戦ポンプ操法

最優秀小隊 第4小隊





守口市門真市消防組合 「高齢者疑似体験セット」の導入について

令和7年度に一般財団法人 大阪市町村消防財団様より「高齢者疑似体験セット」を寄贈していただきました。

「高齢者疑似体験セット」とは、各種パーツを装着することにより、高齢者及び障がいがある方々の身体の動きを疑似体験できるものです。

福祉施設、病院等での消防訓練や、当消防組合が実施する防火管理者講習等で「高齢者疑似体験セット」を装着し体験していただくことにより、通常の訓練では見逃していた問題点を見つけ出し、改善していただいております。

【各種パーツ】

- ・イヤーマフ
- ・視覚障害ゴーグル
- ・ひじ/ひざサポーター
- ・重りバンド
- ・ゼッケン
- ・疑似体験用ベスト重り付き
- ・前かがみ姿勢体験ベルト
- ・両足重りサンダル
- ・アルミ折りたたみステッキ



高槻市消防本部 高槻市島本町消防指令センター 運用開始

令和7年10月7日（火）に、高槻市と島本町における消防業務の相互応援体制の迅速化、大規模災害時の対応強化などを図るため、「高槻市島本町消防指令センター」の運用を開始しました。同センターは、119番通報の際に、通報者が携帯電話などで撮影する現場映像を送信できる「映像通報機能」、消防隊がドローンなどで撮影する現場映像を共有できる「映像伝送機能」、災害に関する各種情報を一元的に管理し、消防本部の作戦指揮の高度化を図る「災害情報共有システム」等、最新の消防指令システムを導入しています。

両市町が運用する活動隊への指令を一元的に担うことで、携帯電話から受信した管轄外の緊急通報に対し、転送の必要がないスムーズな受信体制になるとともに、救急需要の集中時に応援要請することなく、両市町の消防本部から適切かつ迅速に出動することが可能となりました。



貝塚市消防本部 女性消防吏員活躍推進に関する 研修会を開催しました！

貝塚市消防本部では、令和7年7月29日（火）に、総務省消防庁の「令和7年度女性消防吏員活躍推進アドバイザー派遣制度」を活用して研修会を開催しました。

研修会には、広島市消防局の岡 美穂子様（女性消防吏員活躍推進アドバイザー）を講師にお迎えし、女性消防吏員の採用に向けた効果的な取り組みや、女性が働きやすい環境づくりなどについてご講義いただきました。

参加した多くの職員は、女性消防吏員の活動事例や講師ご自身の経験談など、大変貴重な内容を拝聴しました。特に女性視点からのさまざまなアドバイスをいただくことで、女性消防吏員に対する理解を深める機会となりました。

今後は、本研修で得た情報や知見を活かし、引き続き、性別を問わず誰もが働きやすい環境づくりを推進してまいります。また、女性消防吏員の採用に向けて積極的な広報活動等を展開し、女性活躍推進に取り組んでまいります。



泉州南広域消防本部 阪南市消防団と 火災対応連携訓練を実施

泉州南広域消防本部では、令和7年8月3日（日）に阪南消防署において、阪南市消防団と合同で火災対応合同訓練を実施しました。

この訓練は、火災現場における指揮命令、安全確保、情報の共有等、消防活動における、より一層の連携向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、「木造2階建て一般住宅で火災発生、要救助者2名あり、その他詳細不明」との指令により、実災害に即したブラインド型訓練を行いました。参加した消防団員からは、このような大規模な連携訓練は初の試みで反省点もあったが、非常に有用な訓練であったとの感想が多数ありました。

このような連携訓練を、火災に限らず多種多様な災害に対して、今後も継続して行ってまいります。